

## 【件名】

2020年度温室効果ガス排出量（推計）算定結果について

## 【要旨】

特別区長会等から、オール東京62市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」による温室効果ガス排出量（推計）算定結果が公表されたため、23区や中野区における温室効果ガスのなかで、その大半を占める二酸化炭素の排出量及びエネルギー消費量の現状を報告する。

## 1 中野区の二酸化炭素排出量及びエネルギー消費量の現状

## (1) 2019年度及び2020年度二酸化炭素排出量の現状

単位：千トン（前年度比増減率％）

年 度	産業部門	民生家庭部門	民生業務部門	運輸部門	廃棄物部門	合 計
2020	27 (12.5)	466 (3.3)	226 (△6.6)	109 (△6.8)	39 (0)	866 (△0.7)
2019	24	451	242	117	39	872

※各項目は四捨五入しているため、合計値が合わない場合があります。

## (2) 2019年度及び2020年度エネルギー消費量の現状

単位：TJテラジュール（前年度比増減率％）

年 度	産業部門	民生家庭部門	民生業務部門	運輸部門	廃棄物部門	合 計
2020	323 (17.5)	5,502 (5.1)	2,368 (△5.7)	1,428 (△6.2)	—	9,622 (0.9)
2019	275	5,233	2,510	1,522	—	9,540

※各項目は四捨五入しているため、合計値が合わない場合があります。

## (3) 各部門についての分析（いずれも2019年度との比較）

## ①産業部門

二酸化炭素排出量及びエネルギー消費量ともに増加した。建設業における燃料消費量及び新築着工床面積が増加したためと考えられる。

②民生家庭部門

二酸化炭素排出量及びエネルギー消費量ともに増加した。新型コロナウイルス感染症の影響による在宅時間の増加に伴う、家庭内エネルギー消費量が増加したためと考えられる。

③民生業務部門

二酸化炭素排出量及びエネルギー消費量ともに減少した。節電の取組、省エネ設備や機器の普及とともに、新型コロナウイルス感染症の影響による在宅時間の増加に伴う、オフィス等の稼働時間及び稼働空間の縮小が影響していると考えられる。

④運輸部門

二酸化炭素排出量及びエネルギー消費量ともに減少した。自動車走行量等が減少したためと考えられる。

⑤廃棄物部門

二酸化炭素排出量に大きな変化は見られなかった。

2 23区の二酸化炭素排出量及びエネルギー消費量の現状

(1) 2019年度及び2020年度二酸化炭素排出量の現状

単位：千トン（前年度比増減率％）

年 度	産業部門	民生家庭部門	民生業務部門	運輸部門	廃棄物部門	合 計
2020	2,128 (△2.7)	13,040 (3.6)	16,423 (△9.1)	6,130 (△7.9)	1,419 (△6.2)	39,139 (△4.5)
2019	2,186	12,582	18,058	6,655	1,512	40,993

※各項目は四捨五入しているため、合計値が合わない場合があります。

(2) 2019年度及び2020年度エネルギー消費量の現状

単位：T Jテラジュール（前年度比増減率％）

年 度	産業部門	民生家庭部門	民生業務部門	運輸部門	廃棄物部門	合 計
2020	25,171 (△2.1)	153,280 (6.1)	169,218 (△7.6)	81,520 (△7.3)	—	429,189 (△2.7)
2019	25,709	144,464	183,062	87,946	—	441,181

※各項目は四捨五入しているため、合計値が合わない場合があります。

(3) 各部門についての分析（いずれも2019年度との比較）

①産業部門

二酸化炭素排出量及びエネルギー消費量ともに減少した。製造品出荷額当たりのエネルギー消費量が減少したためと考えられる。

②民生家庭部門

二酸化炭素排出量及びエネルギー消費量ともに増加した。新型コロナウイルス感染症の影響による在宅時間の増加に伴う、家庭内エネルギー消費量が増加したためと考えられる。

③民生業務部門

二酸化炭素排出量及びエネルギー消費量ともに減少した。節電の取組、省エネ設備や機器の普及とともに、新型コロナウイルス感染症の影響による在宅時間の増加に伴う、オフィス等の稼働時間及び稼働空間の縮小が影響していると考えられる。

④運輸部門

二酸化炭素排出量及びエネルギー消費量ともに減少した。自動車走行量等が減少したためと考えられる。

⑤廃棄物部門

二酸化炭素排出量が減少した。廃プラスチック及び合成繊維くずの焼却処理量が減少したためと考えられる。

3 基準年度（2013年度）との比較による二酸化炭素排出量及びエネルギー消費量

(1) 中野区の二酸化炭素排出量及びエネルギー消費量

2020年度 実績 部門別	二酸化炭素排出量			エネルギー消費量			2030年度 のCO <sub>2</sub> 目標 排出量 (千トン)
	実績 (千トン)	構成 (%)	2013 年度比 (%)	実績 (TJ)	構成 (%)	2013 年度比 (%)	
産業部門	27	3.1	△10.0	323	3.4	△3.3	15
民生家庭部門	466	53.8	△11.4	5,502	57.2	1.3	446
民生業務部門	226	26.1	△28.5	2,368	24.6	△17.9	
運輸部門	109	12.6	△28.3	1,428	14.8	△26.9	76
廃棄物部門	39	4.5	8.3	—	—	—	33
合計	866	100.0	△18.2	9,622	100.0	△9.3	572

※各項目は四捨五入しているため、合計値が合わない場合があります。

(2) 23区の二酸化炭素排出量及びエネルギー消費量

2020年度 実績 部門別	二酸化炭素排出量			エネルギー消費量		
	実績 (千トン)	構成 (%)	2013 年度比 (%)	実績 (TJ)	構成 (%)	2013 年度比 (%)
産業部門	2,128	5.4	△26.0	25,171	5.9	△20.1
民生家庭部門	13,040	33.3	△12.0	153,280	35.7	1.5
民生業務部門	16,423	42.0	△26.9	169,218	39.4	△15.3
運輸部門	6,130	15.7	△28.4	81,520	19.0	△26.7
廃棄物部門	1,419	3.6	9.3	—	—	—
合計	39,139	100.0	△21.7	429,189	100.0	△13.0

※各項目は四捨五入しているため、合計値が合わない場合があります。

(3) 各部門についての分析 (いずれも2019年度との比較)

中野区及び23区において、各事業者や各家庭での省エネの取組及び省エネ設備・機器の普及や、新型コロナウイルス感染症の影響による在宅時間の増加に伴う、オフィス等の稼働時間及び稼働空間の縮小等により、2013年度比較で、2020年度の二酸化炭素排出量及びエネルギー消費量は減少している。

#### 4 参考資料

【参考】2020年度温室効果ガス排出量(推計)算定結果について

#### 定義

- 二酸化炭素排出量 = 電気・ガス使用量等 × CO<sub>2</sub>排出係数  
 2019年度：電気0.448、ガス2.21  
 2020年度：電気0.434、ガス2.21
- エネルギー消費量 = 電気・ガス使用量等 × 熱量換算係数  
 2019年度、2020年度ともに電気3.6、ガス45.0
- 1TJ (テラジュール) = 1兆J (10<sup>12</sup>J)

#### 各部門の説明

- 産業部門  
 第一次産業及び第二次産業に属する活動によるもの。農業、水産業、工場・事業所(建設業、製造業)が対象。
- 民生家庭部門  
 家庭内での家計活動によるものが対象。

### 3 民生業務部門

第三次産業に属するもの。サービス業として、水道、廃棄物処理、通信、商業、金融・不動産、公務などに属する企業・個人の事務所の内部活動が対象。

### 4 運輸部門

住宅、工場・事業所の外部での人・物の輸送・運搬によるもの。自動車（走行量）と鉄道（乗降車数）が対象。

### 5 廃棄物部門

一般廃棄物中のプラスチック及び合成繊維くずの焼却によるもの。焼却時のエネルギー消費量は、民生業務部門に含まれている。